

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立階上中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他（ ）

所在地 〒988-0238
宮城県気仙沼市長磯中原 1 2 5 番地

E-mail hashikami-chu@kesennuma.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 49 名 女子 64 名 合計 113 名
 児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☐ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☒ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

『私たちは未来の防災戦士』

～「自助・共助・公助」の学びと「つながり」の大切さを通して～

1 ねらい

本校の防災学習は、自然の領域である「災害」について学ぶとともに、自分の将来や地域・社会との「関わり」「つながり」を通して、災害に備え、発生時・後に対応できる力を養うことを目標としている。災害発生時および発生後に、自分の身を守るために自分でできることや、地域の一員として地域住民と協力してできることは何か、中学生の視点から考え、防災意識を家庭から地域へと波及できる防災リーダーを育成する。そのために以下の3点を重視している。

- ①災害発生のメカニズムや、災害発生前・中・後に必要な知識や理解を深める
- ②災害発生時に必要な判断力や、発生後に対応できる技能を身に付ける。
- ③災害発生時および発生後に大切な相互扶助の精神を養う。

2 今年度の活動

- ・ 6／12 本校校庭仮設住宅入居者との合同避難訓練
- ・ 9／14 学年毎防災活動
 - 1年生：高校教諭を講師に招いて津波のメカニズム講座
 - 2年生：消防士を講師に招き救命救急講習，養護教諭による応急手当講習
 - 3年生：手作り防災カルタ，防災クイズ等，小学生への防災啓発活動
- ・ 10／9 災害図上訓練（DIG）
- ・ 10／15 少年消防クラブ活動（規律訓練・初期消火訓練）
- ・ 11／7 総合防災訓練
午前中は気仙沼市津波総合防災訓練の日に合わせ，階上小学校や各自治会等と連携し実施した。午後は本校体育館で，避難所設置訓練を行った。
- ・ 12／6 防災学習発表会
- ・ その他 高知県城西中とのTV会議及び，本校での交流会
岐阜県中津川二中との交流会
宮崎県綾中学校にて行われたシンポジウムに参加
COP21 教員派遣 等

3 成果と課題

○成果

- ・「自助・共助」の視点から，地域との連携を密にしていくことにも重点を置いた。11月に行った総合防災訓練では，階上地区防災教育推進委員会において階上小学校や各自治会長，公民館，階上駐在所等各委員と話し合いを重ね，当日は地域と連携しながら訓練を行うことができた。
- ・「自助意識の向上」と，「災害に対する正常化の偏見」の払拭についても本年度の課題としていた。課題解決に向けて，正しい知識を得るための学習活動を，専門家を講師に迎えて行った。また，様々な場面を想定した訓練を通して，防災意識を高めた。また，他校との交流を通して，本校の取り組みについて発表を行うなど，周囲へ情報を発信していくことができた。
- ・避難所設置訓練では，生徒主体で初期避難所設置訓練を行った。準備の段階では，教員はアドバイザーとして立場で助言を行い，生徒自らが役割ごとに話し合いを重ね協力して行うことができた。

○課題

- ・体験的な活動や生徒同士が意見を出し合う場面を計画的かつ効果的に設定し，生徒自身が課題意識をもって取り組めるようにしていく。
- ・活動内容を見直し，自分の意見を発信したり，他者の意見を取り入れたりする力等の，生徒さらに生徒が主体的・探究的に活動できるよう，課題をもたせられるような工夫が必要である。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☐ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）